

めじろむつみクラブ(MMC)会報

【第37号】 2017年(平成29年)1月1日発行

特定非営利活動法人(NPO)

めじろむつみクラブ(MMC)事務局

住所:八王子市めじろ台3-35-1

tel:080-1038-6875

<http://www.hachioji-mmc.com/>

【新年明けましておめでとうございます。あわせて 惜別・高橋光男さん】

NPO法人めじろむつみクラブ(MMC)もお蔭様で創立15周年を迎えます。

新年のごあいさつとあわせて昨年11月94歳で亡くなったMMC理事長・高橋光男さんについて少しお話ししたいと思います。

高橋さんはMMC設立時から理事として、のちに理事長として不断の努力をされ、今日のMMCを築きあげたお一人と言えます。一昨年12月に自宅で転倒、腰の骨を折り、手術、入院生活、リハビリに努め片倉にある施設に移り、その後体調を崩し入院、誕生日である昨年11月10日に亡くなりました。転倒骨折来ちょうど1年でした。

腰の骨を折る直前に私のところに電話があり「お前さんにあげたいものがある」と。タテ70cm、ヨコ35cmの一幅の水墨画(掛け軸)でした。描いた人は95歳で、亡くなった高橋さんと同じ職場の先輩で自分を可愛がってくれた人だと。箱には「高嶺雲瀑 九十二 小岩井直吉」と墨書してあります。

屹立する高い山から滔々と滝水が落ちる様を描いている。絵の左隅に「九十二直吉」と。頂戴する時に「俺も93歳になっていつまで生きられるかわからない。また飾る場所もないので飾って欲しい」と言われ、毎日接する私のパソコンの横に掛け、一日も早い回復を願っていたのですが残念ながら帰らぬ人に。カラオケでは私と(石原)裕次郎の曲をよく歌いあったものでした。舞踊でも活躍した人。いずれも上手でした。俳句もたしなんでいました。私も明治神宮崇敬会の会員ですが団体参拝時の「木漏れ日の明治の杜や蝉しぐれ」が最後の句となってしまいました。

年齢を感じさせず、ご本人の言葉とは違って、あと10年、100歳までは間違いなく丈夫で過ごせると思っていたに違いありません。私もいつもそう話しておりました。高橋さんの築いたMMC活動をより充実、発展させていくことこそ大事と新年を迎え心新たに思っております。

理事 坂元 芳彦



【平成28年度の作業状況】(12月25日現在)

(1)生活支援事業他有償事業

4月1日から12月25日までの生活支援、地域交流事業の有償作業件数は152件(前年度は138件)で金額は4,037,000円。28年度3月末までの予想金額の90%に達しました。

今年度で特徴的な点は、めじろ台以外に、館町、山田町、散田町、梶田町、南陽台、小門町と作業範囲が広がってきたことです。変わった作業では墓地の清掃や落ち葉の清掃、物置解体、門扉取付け他作業内容も幅が広がってきました。

また、地域交流の有償作業として1、2、4丁目町会から、老朽化により傷んできた掲示板9か所の補修や交換、また会館の樹木剪定、除草作業もさせていただいています。空地の草刈、空き家の植木剪定や管理作業も依頼され、隣接の住民の方から感謝されております。



第2会館作業前



作業後



トイレ修理作業



門扉のペンキ塗り



町会掲示板の取付け



植木剪定作業



新人に植木剪定の講習



墓地の清掃作業

(2) 広報活動

- ・ 会紹介のパンフレットを更新しました。パンフレットは会発足の 15 年前に作成したものを使用しておりましたが、内容が一部そぐわなくなってきたため、女性も交えたパンフレット委員会で数か月かけて作成しました。



パンフレット



志民塾生に MMC の活動について説明

- ・ 9月29日 「シニア元気塾ボランティア養成講座」で地域の事例紹介として MMC の活動についてスライドを使用して会の活動内容を説明しました。
- ・ 12月3日 今年も第8期志民塾(今までの人生で培ってきたものを、「企業社会・家庭」から「地域社会」へ生かしたい、貢献したいという志を持った人たちを養成する塾)17人にめじろ台4つの町会、福祉関係の組織「めじろ台安心ねっと」と共に活動内容を説明しました。めじろ台は各町会と私たちの組織がうまく連携しているモデルケースとして毎年塾生のカリキュラムに取り入れられています。
- ・ 11月19~20日に行われた「第12回趣味の作品展」は読売新聞の地域情報誌に会場の様子が記事として掲載されました。

(3) 助成金の受領

1. 5月に、公益財団法人 大同生命事業団の「シニアボランティア活動助成」に手作りの「趣味の作品展開催」をしたいと助成金に応募していましたが、2倍の競争率の中、決定して9月26日贈呈式に参加してきました。助成金は他のグループと一律で100,000円です。
2. 八王子市からの「八王子市住民主体による訪問型生活支援サービス評価・検証事業 協力団体」に選ばれました。市では平成28年3月に介護予防・日常生活支援総合事業に移行し、従来の介護保険サービスとあわせて、地域の多様な生活支援サービス(日常生活における多様な困りごとの支援)、必要な方に過不足なく提供できる体制整備を行っています。
この地域主体による訪問型生活支援サービスの提供を充実するにあたり、その利用のしやすさ効果等について評価・検証に協力する団体として応募しました。11月から3月末まで65歳以上の高齢者の自宅において訪問型生活支援サービスを行い、アンケート調査を行って利用者のニーズを把握するもので、補助金400,000円が頂けることになりました。

(4) 新会員の紹介

9月1日以降に平野由紀子さん、小林貞子さん、村井妙子さん、米田佳代さん、Tさん、田沼正輝さん、平野節子さん、神下幸子さん、森貞子さん、楡井新子さん、中島久美次さん、加藤久夫さんが入会されま

した。28年度に入り賛助会員を含め23の方が入会されました。
また会員の娘さん、及び9月以降の新会員のうち2名の方は作業会員として作業に加わっています。

【安心・健康～永生会からのお知らせ】

永生会理事長の安藤高朗さんはMMCの理事を務めています。みなみ野に新病院を建設されるとのことで、その概要をお聞きしました。



みなみ野新病院パース

国は、社会保障費抑制のために、積極的に在宅療養を支援していく方向に進んでいます。それを受けて、永生会は、『治せる病気は確実に直す。それも早く。治せない病気はいかに満足していただけるか』を実現するべく、『医療と介護を通じた街づくり、人づくり、思い出づくり』を進めて参ります。

平成28年9月より、みなみ野において新病院の建設が始まりました。同時に、永生病院も快適な環境を整えるべく改修工事が始まりました。新病院は、永生病院の一部機能をみなみ野に移すこと、そして地域に必要な緩和ケアや通所リハビリなどの機能を新設いたします。

病院の建築予定規模は205床で、病棟区分は①回復期リハビリテーション病棟、②医療療養病棟、③緩和ケア病棟の3つです。

①とは、脳卒中や頭部外傷、大腿骨の骨折などを治療した後、『起きる・歩く・食べる・話す』などの日常生活に必要な動作や行為のリハビリテーションを集中的に行い、できるだけ早く自宅へ帰り、元の生活に戻れるよう訓練する病棟です。②では、病状が比較的安定している患者様が、リハビリテーションや介護を受けながら療養していただく病棟です。③とは、がんなどの痛みや苦しみを和らげることで、患者様自身が自分らしく穏やかな日々が送れるよう治療・支援をする病棟です。

一方、地域との交流を深めていくために、通所リハビリテーションと地域交流の場を提供します。自宅療養中の要介護の方が心身ともに元気になり、一人で身の回りのことをできるように日帰りでリハビリテーションを提供する施設であり、健康講話などを通して地域との交流も図りたいと考えています。

永生会は、これからもさらに地域の皆さまの健康と安心を医療・介護の立場でお支えしたいと考えています。

【地域交流～第12回MMC趣味の作品展】

日時:11月19日(土)～20日(日) 場所:めじろ台第一会館

初日は幅寒い秋雨、2日目は真っ青な秋晴れと好対照の天気で、さらに「八王子いちよう祭り」など各地でイベントも重なり来場者数が気になりました。しかし、おかげさまで今年も、個人のほかに桐田小、山田小の生徒さんたちの作品など出展者55人、作品数215点、また、鑑賞者は284人でした。(昨年度は出展者57人、作品数137点、鑑賞者は386人)。

参加された皆さま方に心より感謝申し上げます。

(地域交流事業担当)



舞台裏から

作品展は地域交流という大きな目的がありますが、私たち MMCで活動する会員にとって、一同が協同作業するイベントでもあります。準備は 9 月から始まり、前年のリストを基に、今年はどうな作品に出合えるかしらとワクワクする気持ち、あの方はお変わりないかしらとの思い…、新たな情報を加えてリストが作られ出展の依頼をします。でも早くから応募者が集まるわけではなく、リーダーが声をかけ、足を運び応募票をお預かりして、次に作品・出展料をお預かり、このような流れでお馴染みの方々が毎年出展してください。先輩のやり取りを聞き、人との繋がり、11年の時間が作品展の土台を作っていると感じました。



開催の二日間は、作品を見てくださるお客様の反応、この作品はどんな方が制作されたのかしらと作品と作者を重ね合わせる楽しみがあります。また専門家のご意見を聞ける機会にもなり、作品の奥行をあらためて感じ参考になります。

こんな微笑ましい場面もありました。油で描かれた池田太さんの作品、愛犬「モコ」はキャンバスからこぼれる愛らしさ、思わず触りたくなるほど生き活きと描かれていました。お一人のお客様が作品の

前を去りがたそうに、思わず手を振ってバイバイしている姿を目にして、会場にいらした作者にすぐ知らせ感動の輪が広がりました。

毎年人が集まる作品と云えば、心・脳の柔らかさから生まれるのでしょうか？「落書き」の作者 鈴木春雄さんは言葉の魔術師です。マンウォッチング！ その場でその方を言葉で紡ぎます。落書きならずノートにさっとマジックペンを走らせ、文字のレイアウトも素敵です。お客様も言葉のキャチボールに思わず引き込まれ、一緒にペンを走らせます。

今回はもうお一人華を添えてくださったお煎茶の古川純香さんです。「月遊び」というテーマで素敵な空間を作っておもてなしをしてくださいました。丸テーブルをお客様が囲み、煎茶道のお話を聞きながら茶の文化に触れました。盃ほど小さいお茶椀に注がれたお茶は少ないのですが、その印象は味わい深く、いつまでも記憶に留まりました。

素晴らしい作品一つ一つをご紹介できませんが、平成 29 年第 13 回へ向けて、皆様のご支援ご協力をお願いいたします。



(趣味の作品展運営担当)

【文化事業～クリスマスコンサート 2016 開催】

クリスマスの25日(日)第一会館で開催。当日は70名の入場者で会場はほぼ満席。今年は10弦ギターの小川和隆さん、奥さまの南久松真奈さんの語りに加えてハーモニカの宮崎朗さん(めじろ台四丁目)を招いてのコンサート。

第1部 *きよしこの夜～もろ人こそぞりて～(出演者3人で)

*小川さんのギターソロ:「禁じられた遊び」ほか3曲

*ハーモニカ&ギター:「酒は涙か溜息か」ほか3曲

第2部 *南久松真奈さんの語りと小川さんの伴奏で「がらがら」:ある場所での抽選会で南久松さんが1等当選。ハワイ行!さて顛末は?

*「みんなで歌おう」:全員でギター、ハーモニカ等にあわせて「青い山脈」など6曲を歌いました。

アンコールは「君の名は」(昔のです!)「お正月」。楽しい雰囲気であつという間の1時間半でした。

(講座開催事業担当)



【告知～第 10 回めじろ寄席】

日時:平成 29 年 3 月 5 日(日)13 時～15 時(開場 12 時 30 分)/会場:めじろ台第一会館(042-663-2744)